

ハナグモリ *Glaucanome angulata* Reeve

【選定理由】

本種は内湾奥の泥質干潟に生息する種で、近年東京湾や瀬戸内海沿岸の都市近郊では激減している(和田・他, 1996)。県内内湾域に広く分布していたと思われるが、2009年以前に本種の生息状況に関する記録はない。汐川干潟で1965年に採集された生貝標本(図上段)が確認され、伊勢湾奥の金城埠頭が埋立地であった1977年頃、殻皮の残った合弁死殻が採集された(河合, 2009; 図下段)。現在県内では死殻が採集される場所も確認されていない。県内での本種の生息に関する資料はこの2標本しか確認されていない。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



上段：田原市汐川干潟，1965年，河辺訓受採集。
下段：名古屋市金城ふ頭サンドポンプ，1978年頃，河合秀高採集

【形態】

殻長約25mm、殻は前後に長い楕円形で、膨らみはやや強い。殻は薄く、黄褐色の厚い殻皮を被る。

【分布の概要】

【県内の分布】

現在生息が確認できない。死殻が採集される場所もない。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、フィリピン、国内では房総半島～瀬戸内海～有明海・八代海、沖縄島、西表島に分布する(山下, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような内湾奥部の干潟の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。現在死殻さえ採集できないので、危機的生息状況といえる。内湾奥干潟域のモニタリングは重点的に行われているにもかかわらず、死殻も見出せない事は本種の絶滅の可能性が非常に高い現状を示している。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

葉山しおさい博物館(2001)では相模湾の個体群が消滅にランクされている。

【引用文献】

- 葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
河合秀高, 2009. 名古屋港のサンドポンプで得られた貝. かきつばた, (34): 20.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.
山下博由, 2012. ハナグモリ, p. 139.in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp.東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)